



「.....」

「あれは.....」

「お
お」

「お
お」

「お
お」

「お
お」

「ふふっ♡」

10
3



「授業にかこつけて私に触れようだなんて…とんだ身の程知らずね貴方たち」

「この私がそうやすやすと身体を許すわけないでしょ？殺されなかつただけありがたいと思いなさい」

（メルト……！
周りに倒れているのは
男子生徒たちだ……）

うず

うず

うぐ

うぐ…

う…

うぐ



「ふふ…残念ね、制服に合わせて零基础を弄っていて。いつものヒールだったらもっと酷い目に合わせてあげられたのに♡」

「本当ならこのまま溶かして養分ゼリーにしてやりたいところだけど…それは我慢してあげるわ。貴方たち味気なさそうだし」

（あの様子だと…）

保健体育の授業で相手をしようとした生徒たちを返り討ちにしたのか…？



うぐ

うぐ

うぐ

うぐ…

う…

うぐ

うぐ

「……………」

(なんとなく…ほっとした気がする。
なぜだろう。メルトの行動は
特異点
この学園を調査する目的には
そぐわないのに……)

(ちゃんと学園に溶け込んで
馴染んでいたマシユや
オルタを見たときより…
ずっと…安心してる……?)

「いいい?
私に触れていい人間は
あの人だけなの。
貴方たちみたいなのには
間違っても指一本——」

うず

うず

うぐ

うぐ…

う…

うぐ

うぐ

「メルト」

「ありがた
来てたのね」



メルトとの
絆レベル：10

又

「ご主人様っ♡♡♡」

ひゅん

「おっおっ」

おっおっ

ちゅ

♡♡

おっお

!?



「ふあ…っ♡
ご主人様あ♡♡」

「んひひ♡
おはよ〜メルトちゃん♡」

ぬも♡
ぬも♡

「相変わらず甘くて
美味しい唾液だね♡
溶けちゃいそう♡
遅くなつてごめんね♡
ちよつと色々あつてさ〜」

「ん〜ん、平気♡
ご主人様が来るまで
アイツら虐めて
遊んでたから♡」

はあ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

「あ、もちろん
身体には指一本
触れさせてないわ♡
私はご主人様の
モノだから…っ♡」

「うんうん、
わかつてるよ♡
メルトちゃんは
ホントにイイヨ
だね♡」

「め、メルト…!!!」

「……あら。貴方もいたの？」

「ええ、まあ……ただの顔見知りつてところだけど。ね？マスター？」

「え……ま、まあ……うん……」

ひちや

ひちや

「おや、君は……先輩くん」じゃないか。また会ったね(笑)」

「……」
(この人……朝マッシュとしてた……
拠点を貸してくれてる……)

「メルトちゃんも彼と知り合いだったんだね」

「そうかそうか♡可愛い子ばかり周りにいて羨ましいよ(笑)」

実は僕この学園に特別講師として呼ばれていてね♡ときどきこうして指導にきてるんだ♡メルトちゃんともそのとき会ってねえ♡♡」

「ええ。それで指導を受けているうちに気がついたの」

メルトとご主人様の絆レベル：70♥

「もちろん、貴方に言われなくても特異点の調査は問題なく進めているわ」というかこれもその二環なのだし……それかわかってるわよね？」

「……うん……」

ひちや

ひちや

「この人が私の本当の主人様なんだって♥
メスが強いオスに支配されるのは当たり前……
知っているわよね？」

「う、うん……
でも……」

「そうかそうか納得してくれたならよかった♥
調査とか特異点とかはよくわからないけど……安心したよ、もし君がマシユちゃんやメルトちゃんのこと好きだったら悪いからね(笑)
二人とも先に僕が頂いちやつて♥」

「代わりと言っっちゃ
なんだけど
特別に君にも
指導してあげるよ。
見たところ君、
童貞卒業資格
ないでしょ?」

「ち○ぽでメスを
支配できない
弱いオスは
メスに虐められて
強くなるもの
だからねえ!♡
そういう意味じゃ
メルトちゃんは
適任でしょ!♡」

「え?」
「あ……はこ……」

「そうだなあ……
じゃあメルトちゃん
彼のことも
虐めちやおつか!♡」

「え?」

「……」

ひちぢ

ひちぢ

ぐらぐら

「ああ、そういうこと……
わかったわご主人様♡
ほら貴方も
ぼさつとしてないで……
さっさと
ズボン降ろして
こっちに來なさい!」

「……」

「め…メメント……」

「ちよんよ。」

「じゃあ、うん、うん、うん、うん。」

「ん〜」

「ただでさえ
親指サイズの租チン
のくせに……
この私を前にして
勃起していない
じゃない」

「これから私が
虐めてあげるって
言ってるのよ？」

その恥ずかしい
短小ち○ぽ充血させて
フル勃起するのが
当たり前でしよう」

ほうん

「…それとも私じゃあ
勃たないって言うの?」

「い、いやそつらう
わけじゃ…」

「実はさつらうまじ
オルタとの授業で
その…何度もお…
オナニーしてて…」
「そんなの言い訳に
ならないわ」

「いえ、私を差し置いて
他の女にかまけてた
なんて余計に夕チが
悪い」

ぽん

「仮にもマスターだし
手加減してあげようか
とも思ってたけど…
これはキツイ
オシオキが
必要なようね」

「ほらー！早くこのクズち○ぽ勃たせなさいっ♡
じゃないと一生勃起できなくなるわよっ♡」

「あっ
う……っ」

「それともこのまま踏みつぶされたいのかしら？」



「私は別に構わないけど？
こんなモノー」

「め、め……っ」

ぐにゅ♡

ぐにゅ

ぐにゅ

ぐにゅ

ぐにゅ

ぐにゅ♡

ぐにゅ♡

ぐにゅ♡

ぐにゅ



「んん…♡」

「ふふ♡」

「そうよ、やれば」

「できるじゃない♡」

「……」

「……」

「……それにしても」

「何、「コレ」?(笑)」

「勃つても全然」

「大きくならない」

「じゃない♡」

「親指サイズのまま」

「んんん…」

「通りでカルデアでも」

「誰にも手を出して」

「なかつたわけね…!」

「……」

「……」

「……」

「コシんなのじゃあ」

「女を満足させるなんて」

「夢のまた夢だもの」

「……」

「……」

「んん♡」

「んん♡」

「んん♡」

「んん♡」

「んん♡」

「んん♡」

「んん♡」

「んん♡」

「んん♡」

「んん♡」

「んん♡」

「んん♡」

「んん♡」



「ぶぶ…ちりぱり踏み潰して

しまおうかしら♡

どうせ使い道ないでしょ

コレ？」

「い…っ…メルト…!!!」

「だって貴方人類の

ために闘ってるん

でしよう？」

こんな劣等遺伝子

ここで排除した

ほうが人類のため

じゃない♡ね？」

ほら♡ほら♡♡♡」

「い、痛…っ
め、メルト、やめ…っ♡」

「やめてほしかったら
…わかつてるわね？」

「マツ豚が主人に
媚びれる方法は
ひとつだけよ♡
ほら」

「うっ♡ぐう」

いっ♡

いっ♡

いっ♡

いっ♡

いっ♡

いっ♡

いっ♡



「早く射精しなさいっ♡」

「んっ♡」

「んっ♡」

「んっ♡」

「んっ♡」



「うう……♡♡♡」

「はいお疲れさま♡♡♡」

射精………ん？

射精したわよね？

ものすごく量

少ないけど…

しかもこんな

微量精子のくせに

私の足を汚すなんて…

マスターじゃなかったら

溶かしてるところよ」

「はあ…はあ…

め、メルト…」

「まあいいわ♡
一応は射精せた
のだし…
ご褒美をあげる」

「私とご主人様の
セックス♡

特別に特等席で
見せてあげるわ♡
好きなんでしょ？
そういうの♡」

「………」

と♡

せ♡

せ♡
せ♡

♡

♡

♡

♡
♡
♡

「ちなみにジャンヌオルタ
では何回射精したの？」

「え……ふ……5回……」

「そう。じゃあ私では
10回射精しなさい♡」

「え……!？」

「当たり前でしょう？
他の女でオナニーした
だけで処刑ものなのに…
回数でも負けるなんて
とても許せないわ♡」

「それに貴方は10回
射精してやっつと
ご主人様の1回分
に届くかどうか…」

「それくらいならしなませ
鍛えてるじゃないか♡」
「ならならいっしょに♡」

「……………」

「頑張りなれ♡
このまま
私が手伝って
あげるから♡」

うん♡
うん♡

ん♡

うん♡

うん♡
うん♡

うん♡



「おま○こ
私の秘部」♡

「こんな機会でも
なければ貴方は一生
見ることもなかった
でしょうね♡」

お

お

お

ん♡

ト○♡

お♡
お♡

「ご主人様に
感謝して
しつかり射精
するのより♡」
「う……」

お

お

「め、メルト…」

「なに？」

私とご主人様が
愛し合うところを
間近で見れるなんて
貴方にはもつたいない
おかずでしょう♡

「射精できないんで
言わせないわよ。
10回射精のノルマ
なんか楽勝よね♡」

「……」

トロ♡

グワ♡
グワ♡

「ただし私には
指二本触れては
ダメよ♡
貴方はそこで
見てるだけ」

「恋人(笑)は床に
つけたまま
動かさないこと♡」

「ダメち○ぽは
私が虐めて
あげるから♡
わかったわね？」

お

「さて、そろそろいいかな

メルトちゃん♡

こんな美味しそうな

おま○こ見せられたら

僕もう我慢できないよ♡」

「ええ、もちろんですよ

ご主人様♡」

キョウ

ちゅ♡

ギンギン

く

ト○ン

グ♡

「ほら、

よく見なさい

マスター♡

貴方のは

似ても似つかない

本物ち○ぽ♡」

「く……」

「くすくす♡

もう思い知ってる

でしようけど……♡

女を支配する側に

なりたければ

このち○ぽを

見習うことね♡」

「雑魚イジメ

も済ませて

私も準備完了

だし……♡」

「ひひ…♡
それじゃあえ〜と…
藤丸くん？」

「今からメルトちゃんも
いただくからね♡
よく見ておくんだよ」

「は、は〜…」

「梅」

「ちゅっ♡」

「ギンギン
ギンギン
〜」

「ん…♡」

「それじゃあ
いただきます〜」

「とっ♡
〜♡」

「ぐっ♡
ぐっ♡」

「おっ♡」

「おっ♡」





「アツアツ
ぬちよぬちよで
ち○ぼ溶け
ちやいそう♡
さすが
メルトちゃん
おま○こも
完璧だね♡」

「ふっ♡ふっ♡ふっ♡
♡♡♡♡♡♡
「おほ〜♡♡♡
いいねいいね♡♡
ハメ穴仕上がつてゐるね♡
メルトちゃん♡」

くぼっ

ふっ♡

くぼっ

ふっ♡

ふっ♡

くぼっ

はっ♡♡

はっ♡♡

ぐわっ♡
ぐわっ♡

「(め、メルト……
こんなぶつといモノが…
メルトの中に…つ)」

「このち○ぼ♡
使ってもらったために
私の身体はあるの
だから♡♡♡」

「ふっ♡ふっ♡
う…嬉しいわっ♡
ご主人様あいっ♡
私を支配できる
唯一のち○ぼ♡」

「ひひ♡ありがとね♡
藤丸くん♡
メルトちゃんのおま〇こガン突き
するの最高に
気持ちいいよ♡
マシユちゃんとは
また違った味わいだ♡」

くほっ
くほっ
くほっ

「ふっ♡
ふっ♡」

フェツ

フェツ

「え…な、なんでお礼なんか…」
「いやいや、
だって二人とも
キミが連れて
きてくれたんでしょ♡
こんな極上穴に
手をつけずにさ♡」

くほっ
くほっ

は♡♡♡

は♡♡♡

グワ♡
グワ♡

「それに
メルトちゃんの場合、
君を虐めてとろけた
ま〇こを僕が
いただいでるわけ
だから♡」

「藤丸くんには
感謝しかないよ(笑)
ね♡メルトちゃん♡」

「ええっ♡そうね♡
いいダンシになってくれて
ありがとう♡マスター♡」

「っ」

「う、う、う……っ♡」

「あは……っ♡」

もう射精したの？

さっきはあれだけされて

やっと射精したのに……

本当に好きなのね

寝取られオナニー♡
量は相変わらずだけど……(笑)♡

くほくほ

「寝取られオナニーは
よくないって
教わったんじゃ
なかったの？(笑)♡
ホントどうしようもない
マスター(笑)♡
マゾ豚ね貴方♡」

ほっ

フェツ

フェツ

ほっ

は♡♡♡

は♡♡♡

「ち、ち、ちが……」

グワッ

「いいえ、
違わないわ♡
自分より強いオスに
サーヴァント奪われて
本当は悦んでるん
でしようっ♡♡♡」

…アッ♡

「童貞じぶんが触れたことも
見たこともなかったし
おま〇こが他人に
使われてるのが
イヤインでしょう♡
ねえ♡ほら♡
ほらあ♡♡」

お



「ううう…うう♡」
「ほくらまたイッた♡
ご主人様が1回射精す
間にもう2回目♡
情けない負け犬ね♡」

ぐぼっ

ぐぼっ

「ひひ♡
まあまあメルトちゃん
それくらいにじといで
あげなよ♡
そろそろ僕も
射精すからさ♡」

ぐぼっ

フェツ

フェツ

は♡♡♡

は♡♡♡

アッ♡

グワ♡

「ええ、ご主人様♡
…ほらマスター
わかってるわね？
ご主人様に
感謝を込めて
もう1回よ♡」

「ご主人様が
本物の射精を
見せてくれる
貴方が
大好きな
瞬間に…♡」

「あゝ射精る
射精る♡」

「ほん」

ん

ほん

「ほん」

フォーム

ん

ん

ん

ん

ん



「ふんふん...♡♡ふんふん...♡♡」

「おっほほ♡♡♡♡
気持ちいい♡♡♡♡」

「極上穴に腔内射精♡」

「んひ♡♡♡
ご主人様♡」

ビュルッ

ドクドク

ぶせ♡

「藤丸くんが床に精液
まき散らしてる前で
メルトちゃんど
遺伝子ませませ♡
これは優越感に
浸っちゃうな♡」

ビュルッ

ぶせ♡

ど

メルトとご主人様
の絆レベル：
70→100♡

♡♡♡♡♡

せ♡
ブル♡

「ご主人様のアツい
精液子宮で感じる♡♡
ステキ♡♡♡♡
ご主人様あ...♡♡♡♡」

「ごんな童貞より♡
ご主人様のほうが
10倍好き♡♡♡♡♡」

せ♡
ブル♡

せ♡
ブル♡

「はい7回目〜♡
ほらほら
どうしたの？
ペース落ちてるわよ
早漏のくせに♡
量もどんどん減ってるっ(笑)」

「め、メルト…
も…もう無理…っ」

「だめ♡
私は他の女みたいに
甘くないわよ♡」

「貴方のごと徹底的に
鍛えてあげるって
決めただからっ」
「っ…っ」



「いいから続けなさい♡
ほら、腰を浮かせてはだめよ？
ち○ぽと夕マは床にぴったり
擦りつけたまま上半身で
私たちを支えるの♡♡
床とセックスしながら
ご主人様の椅子になる—
こんな惨めなこと
ないでしょう♡」

ズ
ズ
ズ

「自分はオスとして
底辺だっけしてっから
自覚なさい♡」
「う……っぐ……っぐ」

ぐほ♡
みみ

ぐほ♡
みみ

「ふひひ♡
いや〜ごめんね藤丸くん
重たいでしょ(笑)
まさかメルトちゃんか
ここまでやるとは…♡」

「言っておくけどこれらも
全部貴方のためにして
あげてるのよ♡
わかってるわね？」

「そうそう♡
男は悔しさをバネに
成長するからね(笑)」

トロ♡

ズ
ズ

ズ
ズ

「はい8回目♥」

あと2回よ〜頑張って(笑)」

「あ〜あ〜」

キ〇タマ腫らして

かわいそうに(笑)

藤丸くん泣いてるよ

メルトちゃん♥」

「ふぐ…っ
メルト…♥
メルトお…っ」

「いいのよ、これくらいやらなくちゃ
効果ないんだから♥」

「だってほら見てご主人様♥

貴方が特濃精子で

私の子宮満たしてる間に

マスターが床に作った

水たまり♥」

ズ
ん
ん

ぐほ

ぐほ

みみ

み

ニ
ッ

び
や
る♥

「こんなシャバシャバで…
ホントは漏らしてるだけ
なんじゃないの?(笑)
私のマスターとして
こんなのは許せないわ♥」

「うーん、確かにこれは
ちよつとヒドイね(笑)
こんな薄いのを射精されたら
女のゴが可哀想だよ♥」

「うーっ…っ
うーっ…っ」

「そっぴでしよっ♡
だからこーやって私がい
思いつきり虐めてあげないっ♡
どうせ三倍に腫れて
ちようどいいくらいいの
大きさをんだから…
潰れるギリギリの力で…っ♡」

「あゝあ、大変だね藤丸くん♡
ま、こればっかりは持って生まれた
ものだから仕方ないね」

「ぶっちやけオスの順列は
生まれでほぼ決まってるから♡
もうわかってるよね藤丸くん♡
キミがかたゝい床で
ち○ぽ虐められてる上で」

「ボクはメルトちゃんの
ぬちよぬちよ柔らかか
おま○こ好き放題
使えるわけ♡」

「上質なメス穴使えるのは
選ばれたオスの特権
だからね♡」

み

みみ

「ほらまた射精すよ
藤丸くん♡
準備はいいかな？(笑)
キミのメルトちゃんに
また腔内射精
キメるよおっ♡」

「ほらわかってるわね
マスター♡
今度こそきつちり
射精しないっこのまま潰」

「ぐっぐっぐっ…っ♡」



「ふほり♡♡♡」

ん
お
お

ポ

ク
ッ

セ

ズ
ン
ン

あ
ん
ん

ス
ム

ム!!

ん
ん

ん





アッ

ズッ

ムム!!

ムムム

オ

「んっっっ♥♥♥
イイいっっっっっっっ♥♥♥
メルトちゃんゝんの穴
何度射精しても
イイっっっっ♥♥♥♥♥」

「このち〇ぽを
射精させる
ためだけにある
ような穴っ♥♥♥♥♥
名器すぎるっ♥♥♥♥♥」

「おっほ♥♥♥
おっほ♥♥♥」

あゝ

「ああ〜っっっ♥♥♥
吸われるっ♥♥♥
ドロドロコま〇ぽ
溶けたち〇ぽ
搾られるっ♥♥♥♥♥」

「お♥♥♥
お♥♥♥
おっっっっ♥♥♥」

あゝ

**ズ
ヂュ
ウウウッ!**

**ゼ
ジュ
ジュ
ジュ
ジュ
ジュ
ジュ**

**ゼ
ジュ
ジュ
ジュ
ジュ
ジュ
ジュ**

「あゝ??」

「あああ…っ!?」

「ひひひっ♥♥♥
パンパンの子宮で貪欲に
飲み込んだんじやつて♥♥♥
この細い身体のどこかに
入ってるのかなっ♥♥♥♥♥」

ド

**ふ
ん
ぷ**

「あゝ」

「ふう〜〜〜♡♡♡
う♡ふう〜♡
あゝまだ射精てる♡

……あれ?

藤丸くんどうかした?(笑)

「え?.....ああ.....
もしかして.....」

「.....ッ」

「.....!!」

「ごめんなさいね♡
私、ご主人様とするときは
色々感じやすいものだから
つい力が入ってしまった♡」

ぞう

ぐんぐん

ド

がう

ゼジュ
ジュジュ
ジュジュ
ジュジュ
ジュジュ

ズ
ジュ
ジュ
ジュ
ジュ
ジュ

ぞう

ぞう

がう

「でもまあ別にいいわよね?
どうせ使い道のないモノ
なんだからひとつくらい
タマひとつのほうが
精力増すわよきつと(笑)」

「.....ッッ!」

「勢いあまって
潰してしまった
かしら?(笑)」

「……ふふ♥
もう半分気絶してるわね。
それでも椅子の姿勢を
保ったのは褒めてあげる♥」

「ホントホント♥
根性はすごいなく藤丸くん(笑)」

「それに免じてノルマの
あと1回はオマケして
あげるわ♥」

「最後のは射精は貴方の
2回分はあったみたいだし？
それでも少ないけど(笑)
タマひとつ犠牲にした
かいがあったわね♥」



ゼジュラッ
ゼジュラッ
ゼジュラッ
ゼジュラッ

ゼジュラッ
ゼジュラッ
ゼジュラッ
ゼジュラッ

ゼジュラッ

「それじゃあ今回は
これくらいにしておいて
あげようかしら♥
私とご主人様はまだまだ
愉しむけれど……」

「貴方は早く
保健室?行った方が
いいわよ(笑)」

「ぶひひ、お大事にね、
藤丸くん♥」

ド

ガッ

「……」

























































103



うず

うず

うぐ

うぐ...

う...

うぐ

うぐ



?

?



ちゅ

ちゅ

ちゅ

ちゅ

B B



ちゅぽぽぽ
ちゅぽぽぽ
ちゅぽぽぽ
ちゅぽぽぽ
ちゅぽぽぽ

ちゅぽぽぽ
ちゅぽぽぽ
ちゅぽぽぽ
ちゅぽぽぽ
ちゅぽぽぽ

くちゅ
くちゅ
くちゅ

ちゅぽぽぽ
ちゅぽぽぽ
ちゅぽぽぽ
ちゅぽぽぽ
ちゅぽぽぽ

ちゅぽぽ
ちゅぽぽ
ちゅぽぽ

ちゅぽぽ
ちゅぽぽ
ちゅぽぽ

ちゅぽぽ
ちゅぽぽ
ちゅぽぽ







ほろん





アハハ

アハハ

アハハ

アハハ

アハハ

アハハ

アハハ

アハハ







ん
んんんんん♡

ん♡♡

ちゅっ♡♡

ん♡♡

ん♡♡♡♡

ん♡

ん♡

ん♡







ぐほっ

ぐほっ

ぐほっ

はっ

は

はっ

はっ

はっ

は

は

は



ぐほっ

ぐほっ

ぐほっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ





ぐほっ

ぐほっ

ぐほっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ





あ

ほろろ
ガム

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ



トク

トク

トク

トク

トク

トク

トク

トク

トク

トク

トク

トク

トク



あは

あは

あは

あは

あは

あは

あは

あは

あは

あは

あは

あは

あは

あは

あは



あは

あは

R

あは

あは

あは

あは

あは

あは

あは

R

あは

あは

あは

あは



ん
お
び
る

ポ

ク
ッ

ズ
ン
ン
ン
ン

ポ

あ
ん
ん
ん

ズ

ん!!

ん
ん
ん

ん





.....?
.....?

あれは.....?
あれは.....?

十一
一
書

十一
一
書

十一
一
書

十一
一
書

ふふ…♡

10
3



授業にかこつけて
私に触れようだなんて…
とんだ身の程知らずね
貴方たち

メルト……!!
周りに倒れているのは
男子生徒たちだ……

うず

うず

うぐ

うぐ…

う…

うぐ



授業にかこつけて
私に触れようだなんて…
とんだ身の程知らずね
貴方たち

この私がそう
やすやすと
身体を許すわけ
ないでしょ？

殺されなかつた
だけありがたい
と思いなさい

メルト……!!
周りに倒れているのは
男子生徒たちだ……

うず

うず

うぐ

うぐ…

う…

うぐ

うぐ

ふふ：残念ね、
制服に合わせて
零基を弄っていて

いつものヒール
だったらもつと
ひどい目に合わせて
あげられたのに♡

本当ならこのまま
溶かして養分ゼリーにして
やりたいところだけど…
それは我慢してあげるわ。
貴方たち味気なさそうだし

うず

うず

うぐ

うぐ…

う…

うぐ

うぐ

ふふ：残念ね、制服に合わせるで
零基を弄っていて

いつものヒール
だったらもつと
ひどい目に合わせて
あげられたのに♡

本当ならこのまま
溶かして養分ゼリーにして
やりたいところだけど…
それは我慢してあげるわ。
貴方たち味気なさそうだし

あの様子だと…

保健体育の授業で相手を
しようとした生徒たちを
返り討ちにしたのか…？

うず

うず

うぐ

うぐ…

う…

うぐ

うぐ

.....
なんとなく...
ほっとした
気がする。
なぜだろう。

メルトの行動は
特異点
この学園を調査する
目的には
そぐわないのに.....

ちやんと学園に
溶け込んで
馴染んでいた
マシユやオルタを
見たときより...

ずっと...
安心してると...?

うず

うず

うぐ

うぐ...

う...

うぐ

うぐ



.....
なんとなく...
ほっとした
気がする。
なぜだろう。

メルトの行動は
特異点
この学園を調査する
目的には
そぐわないのに.....

ちやんと学園に
溶け込んで
馴染んでいた。
マシユやオルタを
見たときより...

ずっと...
安心してると...?

いい？
私に触れていい人間は
あの人だけなの。
貴方たちみたいなのには
間違っても指一本

うず

うず

うぐ

うぐ...

う...

うぐ

うぐ





メルトー

?

?

メルト——

あら♡
来てたのね——



メルトとの
絆レベル：10

又。。



おっしゅ

おっしゅ

ひゅ

ご主人様っ♡♡

ちゅ

♡♡

おっしゅ

!?

ごひゅじん
ひやまあっつ
ちゅぱっ
ちゅぱっ
ちゅぱっ

ちゅぱっ
ちゅぱっ
ちゅぱっ

んっちゅっ
ちゅぱっ
ちゅぱっ
ちゅぱっ
ちゅぱっ

ちゅぱっ
ちゅぱっ
ちゅぱっ
ちゅぱっ
ちゅぱっ

くちゅ
くちゅ

ちゅぱっ
ちゅぱっ
ちゅぱっ
ちゅぱっ
ちゅぱっ

ちゅぱっ

ちゅぱっ

ちゅぱっ



ごひゅじん
ひやまあっつ
ちゅぱっ
ちゅぱっ
ちゅぱっ

ちゅぱっ
ちゅぱっ
ちゅぱっ

んっちゅっ
ちゅのちゅの
ごひゅじん
ひやまっ

ちゅぱっ
ちゅぱっ
ちゅぱっ

くちゅ
くちゅ

ちゅぱっ
ちゅぱっ
ちゅぱっ

ちゅぱっ
ちゅぱっ
ちゅぱっ

ちゅぱっ
ちゅぱっ
ちゅぱっ

ちゅぱっ
ちゅぱっ
ちゅぱっ

め、メルト...??
んひひっ
いきなり
情熱的だなあ
メルトちゃんは

んっっちゅっ♡♡♡
ちゅる♡ちゅる♡
ごひゅじん♡
ひゃまっ♡♡♡

ごひゅじん♡
ひゃまあっ♡♡
ちゅぱっ♡♡
ちゅぱっ♡♡

ちゅる♡ちゅる♡
ちゅる♡ちゅる♡

ちゅる♡ちゅる♡
ちゅる♡ちゅる♡

くちゅ♡

ちゅる♡ちゅる♡
ちゅる♡ちゅる♡

ちゅる♡

ちゅる♡

ちゅる♡

め、メルト...??

んひひっ♡
いきなり
情熱的だなあ♡
メルトちゃん♡

ほらもっと
舌絡めて
唾液交換
しよ♡♡

じゅるるっ♡
ちゅぷちゅ♡
ちゅる♡♡

ぷあ…っ♡
ご主人様あ♡♡♡

んひひ♡
おはよ♡
メルトちゃん♡

ぬも♡♡
ぬも♡♡

相変わらず甘くて
美味しい唾液だね♡
溶けちゃいそう♡
遅くなつてごめんね♡
ちよつと色々あつてさ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡



ぷあ…っ♡
ご主人様あ♡♡♡

んひひ♡
おはよ♡
メルトちゃん♡

ぬも♡
ぬも♡

相変わらず甘くて
美味しい唾液だね♡
溶けちやいそう♡
遅くなってごめんね♡
ちよっと色々あつてさ♡

んん、平気♡
ご主人様が来るまで
アイツら虐めて
遊んでたから♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

あ、もちろん
身体には指一本
触れさせてないわ
私はご主人様の
モノだから…っ♡

うんうん、
わかってるよ♡
メルトちゃんは
ホントにイイコ
だね♡

ぷあ…っ♡
ご主人様あ♡♡♡

んひひ♡
おはよ♡
メルトちゃん♡

ぬも♡
ぬも♡

相変わらず甘くて
美味しい唾液だね♡
溶けちやいそう♡
遅くなつてごめんね♡
ちよつと色々あつてさ♡

んん、平気♡
ご主人様が来るまで
アイツら虐めて
遊んでたから♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

あ、もちろん
身体には指一本
触れさせてないわ
私のご主人様の
モノだから…っ♡

うんうん、
わかってるよ♡
メルトちゃんは
ホントにイイコ
だね♡

め、メルト…!!

……あら。
貴方もいたの？

おや、君は…
『先輩くん』じゃないか。
また会ったね(笑)

……！
この人：朝マシユとしてた…
拠点を貸してくれてる…

ひちぢゃ

ひちぢゃ



……あら。
貴方もいたの？

ええ、まあ……
ただの顔見知り
つてところだけど。
ね？マスター？

え……ま、まあ……
うん……

おや、君は……
『先輩くん』じゃないか。
また会ったね(笑)

……！
この人：朝マシユとしてた……
拠点を貸してくれてる……

メルトちゃんも彼と
知り合いだったんだね

ひちや

ひちや



……あら。
貴方もいたの？

ええ、まあ……
ただの顔見知り
つてところだけど。
ね？マスター？

え……ま、まあ……
うん……

おや、君は……
『先輩くん』じゃないか。
また会ったね(笑)

そうかそうか♥
可愛い子ばかり
周りにいて
羨ましいよ(笑)

……！
この人：朝マシユとしてた……
拠点を貸してくれてる……

メルトちゃんも彼と
知り合いだったんだね

実は僕この学園に
特別講師として
呼ばれていてね♥
ときどきこうして
指導にきてるんだ♥
メルトちゃんとも
そのとき会って
ねえ♥

ええ。それで
指導を受けている
うちに気がついたの

この人が私の本当の
ご主人様マスターなんだって♡

メスが強いオスに
支配されるのは
当たり前……
知っているわよね？

メルトとご主人様の
絆レベル：70♡



ええ。それで
指導を受けている
うちに気がついたの

この人が私の本当の
ご主人様なんだって
マスター

メスが強いオスに
支配されるのは
当たり前……
知っているわよね？

う、うん……
で、でも……

メルトとご主人様の
絆レベル：70♥

もちろん、
貴方に言われなくても
特異点の調査は問題
なく進めているわ♥
—と、うかがってもその
一環なのだし……

それもわかって
いるわよね？

……うん……

ひちや

ひちや



ええ。それで
指導を受けている
うちに気がついたの

この人が私の本当の
ご主人様なんだって
マスター
メスが強いオスに
支配されるのは
当たり前……
知っているわよね？

う、うん……
で、でも……

メルトとご主人様の
絆レベル：70♥

もちろん、
貴方に言われなくても
特異点の調査は問題
なく進めているわ♥
というかこれもその
一環なのだし……

それもわかって
いるわよね？

……うん……

そうかそうか
納得してくれたなら
よかった♥
調査とか特異点とかは
よくわからないけど……

安心したよ、もし君が
マシユちゃんや
メルトちゃんのこと
好きだったら悪い
からね(笑)

二人とも先に僕が
頂いちやって♥

代わりと言っちゃ
なんだけど
特別に君にも
指導してあげるよ。
見たところ君、
童貞卒業資格
ないでしょ？

え？
あ……はい……

ひちや
ひちや

ひちや
ひちや

ひちや
ひちや



代わりに言っちゃ
なんだけど
特別に君にも
指導してあげるよ。
見たところ君、
童貞卒業資格
ないでしょ？

え？
あ……はい……

そうだなあ……
じゃあメルトちゃん
彼のことも
虐めちやおつか♡

え？

!!?
ど、どういふ……？



代わりに言っちゃ
なんだけど
特別に君にも
指導してあげるよ。
見たところ君、
童貞卒業資格
ないでしょ？

ち○ぽでメスを
支配できない
弱いオスは
メスに虐められて
強くなるもの
だからねえ♡
そういう意味じゃ
メルトちゃんは
適任でしょ♡

そうだなあ…
じゃあメルトちゃん
彼のことも
虐めちやおつか♡

え？
あ……はい…

え？

!?
ど、どういふ……？

ひちや♡

ひちや♡

ひちや♡

代わりと言っちゃ
なんだけど
特別に君にも
指導してあげるよ。
見たところ君、
童貞卒業資格
ないでしょ？

ち○ぽでメスを
支配できない
弱いオスは
メスに虐められて
強くなるもの
だからねえ♡
そういう意味じゃ
メルトちゃんは
適任でしょ♡

え？
あ……はい……

そうだなあ……
じゃあメルトちゃん
彼のことも
虐めちやおつか♡

え？

!!?
ど、どういふ……？

ひちぢ

ひちぢ

わんわん

ああ、そういうこと……
わかったわが主人様♡

ほら貴方も
ぼさつとしてないで……
さっさと
ズボン降ろして
こっちに来なさい

……!!

め…メルト……

ちよっぴ。
これは
どろろメルト…

ほろん



め…メルト……

ちよつと。
これは
どういふ……

え？

ただでさえ
親指サイズの租チン
のくせに……
この私を前にして
勃起していない
じゃない

ほうん

め…メルト……

ちよつと。

これは
どういふ……

え？

ただでさえ
親指サイズの租チン
のくせに……
この私を前にして
勃起していない
じゃない

これから私が
虐めてあげるって
言ってるのよ？

ぽん

その恥ずかしい
短小ち○ぽ充血させて
フル勃起するのが
当たり前でしょう

…それとも私じゃああ
勃たないって言うの？

い、いやそういう
わけじゃ…

実はさつきまで
オルタとの授業で
その…何度もお…
オナニーしてて…

ほうん

：それとも私じゃああ
勃たないって言うの？

い、いやそういう
わけじゃ…

実はさつきまで
オルタとの授業で
その…何度もお…
オナニーしてて…

そんなの言い訳に
ならないわ

いえ、私を差し置いて
他の女にかまけてた
なんて余計に夕子が
悪い

ほうん

：それとも私じゃああ
勃たないって言うの？

い、いやそういう
わけじゃ…

実はさっきまで
オルタとの授業で
その…何度もお…
オナニーしてて…

そんなの言い訳に
ならないわ

いえ、私を差し置いて
他の女にかまけてた
なんて余計に夕子が
悪い

ぼろん

仮にもマスターだし
手加減してあげようか
とも思ってたけど…

これはキツイ
オシオキが
必要なようね
♥

ほら！
早くこのクズち○ぽ
勃たせなさいっ♡
じゃないと一生勃起
できなくなるわよっ♡

あっ
う……っ

♡

♡
うっ

♡
うっ

♡
うっ

♡
うっ

♡
うっ

♡
うっ

♡
うっ

♡
うっ

♡
うっ

♡
うっ



ほら！
早くこのクズち○ぽ
勃たせなさいっ♡
じゃないと一生勃起
できなくなるわよっ♡

あっ
う……っ

それとも
このまま
踏みつぶされ
たいのかしら？

♡

♡
♡

♡
♡

♡
♡

♡
♡

♡
♡

♡



ほら！
早くこのクズち○ぽ
勃たせなさいっ♡
じゃないと一生勃起
できなくなるわよっ♡

あっ
う……っ

それとも
このまま
踏みつぶされ
たいのかしら？

♡

♡
ト……っ

♡
ン……っ

♡
ン……っ

私は別に
構わないけど？
こんなモノ

め、
メルト……っ

♡
ン……っ

♡
ン……っ

♡
ン……っ

♡
ン……っ



ううっっっ♡

ふふ♡
そうよ、やれば
できるじゃない♡

.....
それにしても

何、コレ?(笑)
勃っても全然
大きくならない
じゃない♡
親指サイズのまま

うっっ♡

うっっ♡

うっっ♡

うっっ♡

うっっ♡

うっっ♡

うっっ♡



ううっっっ♡

ふふ♡
そうよ、やれば
できるじゃない♡

.....
それにしても

何、コレ?(笑)
勃つても全然
大きくならない
じゃない♡
親指サイズのまま

115♡

100♡

115♡

115♡

115♡

115♡

通りでカルデアでも
誰にも手を出して
なかつたわけね...

115♡



ううっっっ♡

ふふ♡
そうよ、やれば
できるじゃない♡

.....
それにしても

何、コレ?(笑)
勃つても全然
大きくならない
じゃない♡
親指サイズのまま

いっ♡

うっ♡

ぐっ♡

せ♡

わっ♡

わっ♡

ぐっ♡

.....
こんなのじゃあ
女を満足させるなんて
夢のまた夢だもの

通りでカルデアでも
誰にも手を出して
なかつたわけね...

はいいめ...

ふふ…やっぱり
踏み潰して
しまおうかしら ♡

どうせ使い道
ないでしょう
コレ？

い…っ
メルト…!!

いっ
っ

いっ
っ

いっ
っ

いっ
っ

いっ
っ

いっ
っ

いっ
っ



ふふ…やっぱり
踏み潰して
しまおうかしら ♡

どうせ使い道
ないでしょう
コレ？

い…っ
メルト…!!

だって貴方人類の
ために闘ってるん
でしよう？
こんな劣等遺伝子
ここで排除した
ほうが人類のため
じゃない♡ね？
ほら♡ほらっ♡

い、痛…っ
め、メルト、やめ…っ ♡

ぐん

ぐん

ぐん

ぐん

ぐん



ふふ…やっぱり
踏み潰して
しまおうかしら♡

どうせ使い道
ないでしょう
コレ？

い…っ
メルト…!!

だって貴方人類の
ために闘ってるん
でしよう？
こんな劣等遺伝子
ここで排除した
ほうが人類のため
じゃない♡ね？
ほら♡ほらっ♡♡

ヒッ♡

ぐっ♡

せ♡

わっ♡

わっ♡

トっ♡

わっ♡

ぐっ♡

うっ♡
ぐっ♡

マゾ豚が主人に
媚びれる方法は
ひとつだけよ♡
ほら—♡

やめてほしかったら
…わかってるわね？

い、痛…っ
め、メルト、やめ…っ♡

早く射精しなさいっ♡

うう——っ♡

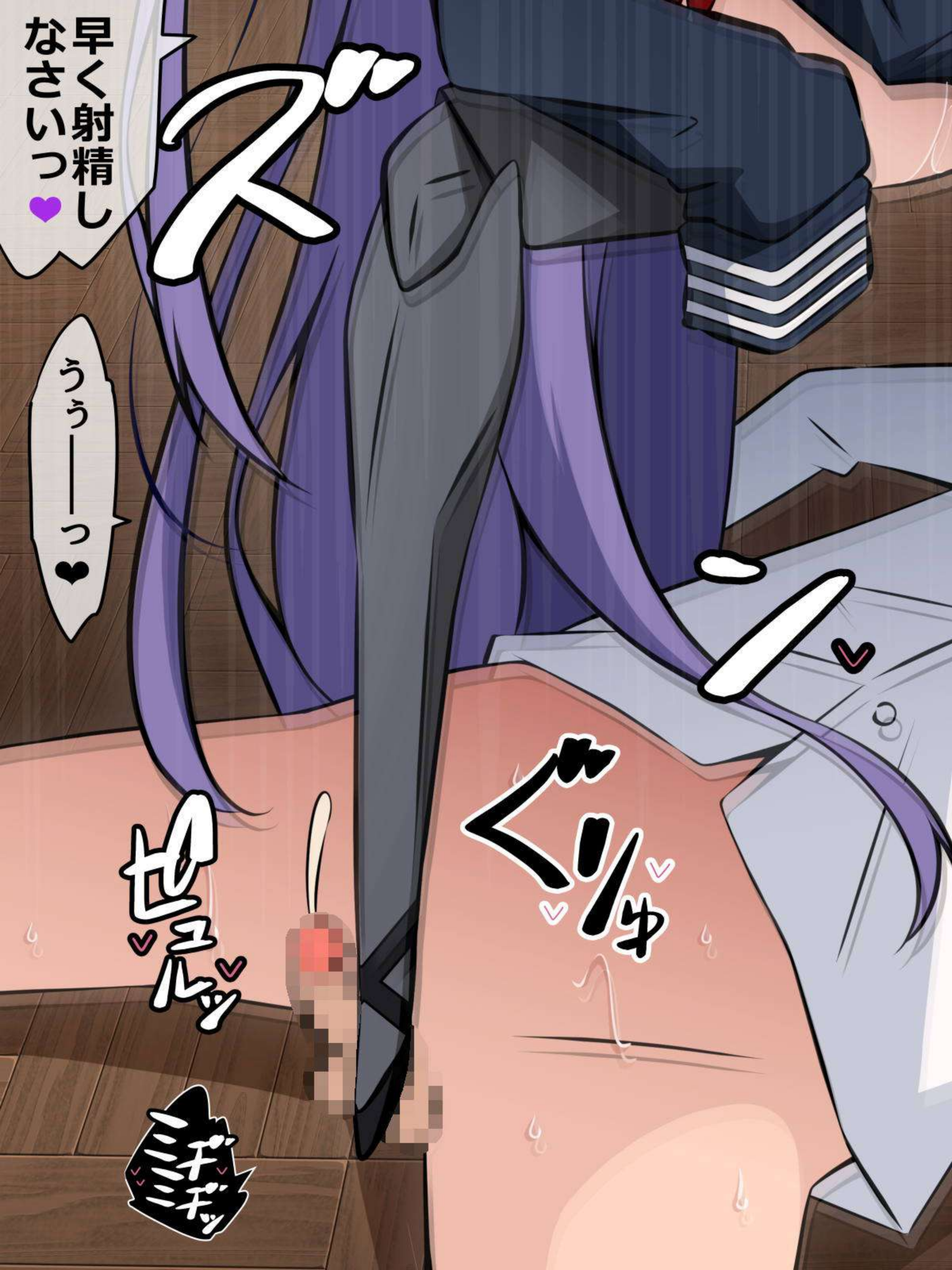
せむせむ♡

ニギニギ♡

ぐん♡

ズ

ズ



うう……っ♡♡

はいお疲れさま♡

射精………ん？

射精したわよね？

ものすごく量

少ないけど……

しかもこんな

微量精子のくせに

私の足を汚すなんて……

マスターじゃなかったら

溶かしてるところよ

うん♡
うん♡

ん♡

ん♡

ん♡

ん♡

ん♡
ん♡

ん♡



うう……っ♡♡

はいお疲れさま♡

射精………ん？

射精したわよね？

ものすごく量

少ないけど……

しかもこんな

微量精子のくせに

私の足を汚すなんて……

マスターじゃなかったら

溶かしてるところよ

はあ……はあ……
め、メルト……

うん♡
うん♡

まあいいわ♡
一応は射精せた
のだし……
ご褒美をあげる

ん♡

うん♡

と♡

せ♡

せ♡
うん♡

うん♡

うう……っ♡♡

はいお疲れさま♡

射精………ん？

射精したわよね？

ものすごく量

少ないけど……

しかもこんな

微量精子のくせに

私の足を汚すなんて……

マスターじゃなかったら

溶かしてるところよ

はあ……はあ……
め、メルト……

うん♡
うん♡

まあいいわ♡
一応は射精せた
のだし……
ご褒美をあげる

私とご主人様の
セックス♡
特別に特等席で
見せてあげるわ♡
好きなんでしょ？
そういうの♡

………!!

と♡

せ♡

せ♡
せ♡

ん♡

ん♡

ん♡



ちなみにジヤン又オルタ
では何回射精したの？

え……
ご……5回……

そう。じゃあ私では
10回射精しなさい♡

うん♡
うん♡



ちなみにジヤン又オルタ
では何回射精したの？

え……
ご……5回……

そう。じゃあ私では
10回射精しなさい♡

え……!?

当たり前でしょう？
他の女でオナニーした
だけで処刑ものなのに…
回数でも負けるなんて…
とても許せないわ♡

うん♡
うん♡

ん♡

ん♡

ん♡

ん♡

ん♡
ん♡

ん♡



ちなみにジヤン又オルタ
では何回射精したの？

え……
ご……5回……

そう。じゃあ私では
10回射精しなさい

え……!?

当たり前でしょう？
他の女でオナニーした
だけで処刑ものなのに…
回数でも負けるなんて…
とても許せないわ

うんうん

それに貴方は10回
射精してやつと
ご主人様の1回分
に届くかどうか！

それくらいしなきゃ
鍛えてることはない
ならぬでしょう

……

とっ

せつ

せつ

せつ

ん

うん



ちなみにジヤン又オルタ
では何回射精したの？

え……
ご……5回……

そう。じゃあ私では
10回射精しなさい

え……!?

当たり前でしょう？
他の女でオナニーした
だけで処刑ものなのに…
回数でも負けるなんて…
とても許せないわ

うんうん

それに貴方は10回
射精してやつと
ご主人様の1回分
に届くかどうか！

それくらいしなきゃ
鍛えてることはない
ならないでしょう

頑張りなさい
このまま
私を手伝って
あげるから

せつ

せつ

入

うん

うん

うん

うん

うん

うん

……

ほら、どうかしら？
おま○こ
私の秘部 ♡

こんな機会でも
なければ貴方は一生
見ることもなかった
でしょうね ♡



ト○ト○ ♡

3

21 ♡

ん ♡

グ○グ○ ♡

21 ♡

21 ♡

21 ♡

ほら、どうかしら？
おま○こ
私の秘部 ♡

こんな機会でも
なければ貴方は一生
見ることもなかった
でしょうね ♡



ト○ト○ ♡

3

21

ん ♡

グ○グ○ ♡

ご主人様に
感謝して
射精
するのよ ♡

う……

お ♡

め、メルト...

なに？
私とご主人様が
愛し合うところを
間近で見れるなんて
貴方にはもったいない
おかげでしよう♡

射精できないんで
10回射精のノルマ
なんか楽勝よね♡



トコトコ♡

グワ♡
グワ♡

ん♡

お♡

お♡

お♡

お♡

め、メルト...

なに？ 私とご主人様が
愛し合うところを
間近で見れるなんて
貴方にはもったいない
おかげでしょう♡

射精できないんで
10回射精のノルマ
なんか楽勝よね♡

う.....

おし

ろん♡

トロ♡

グワ♡
グワ♡

ただし私にはは
指一本触れては
ダメよ♡
貴方はそこで
見てるだけ

おし

おし

め、メルト...

なに？ 私とご主人様が愛し合うところを間近で見れるなんて貴方にはもったいないおかげでしょう♡

射精できないなんて言わせないわよ。10回射精のノルマなんか楽勝よね♡

う.....

おし

ろん♡

トロ♡

グワ♡

ただし私には指一本触れてはダメよ♡ 貴方はそこで見てるだけ

おてて恋人(笑)は床につけたまま動かさないこと♡

ダメち○ぽは私が虐めてあげるから♡ わかったわね？

おし

さて、そろそろいいかな
メルトちゃん♥
こんな美味しそうな
おま○こ見せられたら
僕もう我慢できないよ♥

ええ、
もちろんよ
ご主人様♥

前戯
雑魚イジメ
も済ませて
私も準備完了
だし…っ♥

ギンギン
ギンギン
く

持

ちゅっ♥

トッ

グッ
グッ

お

お

お

さて、そろそろいいかな
メルトちゃん♥
こんな美味しそうな
おま○こ見せられたら
僕もう我慢できないよ♥

ええ、
もちろんよ
ご主人様♥

持

ちゅっ♥

ギンギン

く

ト

グ

ほら、
よく見なさい
マスター♥
貴方のとは
似ても似つかない
本物ち○ぽ♥

く……

お

くすくす♥
もう思い知ってる
でしょうけど……♥
女を支配する側に
なりたければ
このち○ぽを
見習うことね♥

前戯
雑魚イジメ
も済ませて
私も準備完了
だし……っ♥

ひひ…♡
それじゃあえ〜と…
藤丸くん？
今からメルトちゃんも
いただくからね♡
よく見ておくんだよ

は、はい…

梅

ちゅ♡♡

ギンギン
ギンギン
く

ト♡♡

グ♡♡
グ♡♡

お

お



ひひ…♡
それじゃあえ〜と…
藤丸くん？
今からメルトちゃんも
いただくからね♡
よく見ておくんだよ

は、はい…

ん…♡

それじゃあ
いただき〜

梅

ちゅ♡♡

ギンギン
ギンギン
く

ト♡
ト♡
ト♡

グ♡
グ♡
グ♡

お♡

お♡

お♡





おはよう

おはよう

まあ〜〜〜

おはよう

おはよう



ん
ん
ん
ん
ん

み
ち
ち
ち

み
ち
ち
ち
ち

お
い
い
い
い

ん
ん
ん

て
て
て

て
て
て
て

ん
ん
ん
ん
ん
ん
ん
ん
ん
ん

まあ〜〜〜ああす♡

んっ♡ふう
ふ♡ふうっ♡

おほっ♡♡♡
いいねいいねっ♡
ハメ穴仕上がってるね♡
メルトちゃん♡

アツアツ
ぬちよぬちよで
ち○ぽ溶け
ちやいそう♡
さすが
メルトちゃん
おま○こも
完璧だね♡

ぐぼっ

ぐぼっ

フェツ

フェツ

はっ♡♡♡

はっ♡♡♡

ぐり♡
ぐり♡

お

お

お



ふんっ♡ふんっ♡
ふ♡ふうっ♡
♡♡♡♡♡

おほ♡♡♡♡♡
いいねいいね♡♡♡
ハメ穴仕上がってるね♡
メルトちゃん♡

アツアツ
ぬちよぬちよで
ち○ぽ溶け
ちやいそう♡
さすが
メルトちゃん
おま○こも
完璧だね♡

ぐぼっ
ぐぼっ
ぐぼっ

ぐぼっ
ぐぼっ

フェツ

フェツ

は♡♡♡♡♡

は♡♡♡♡♡

グワ♡
グワ♡

ふふっ♡
う：嬉しいわっ♡
ご主人様♡
私を支配できる♡
唯一のち○ぽ♡

このち○ぽに
使ってもらうために
私の身体はあるの
だからっ♡♡

め、メルト……
こんなぶっといモノが…
メルトの中に……っ

ひひ♡ありがとね♡
藤丸くん♡
メルトちゃんのおま○こガン突き
するの最高に
気持ちいいよ♡
マシユちゃんとは
また違った味わいだ♡

ふふっ♡
ふふっ♡

ぐほっ

ぐほっ

フェツ

フェツ

は♡♡♡

は♡♡♡

グワ♡
グワ♡

お

お

お

え…な、なんで
お礼なんか…



ひび♡ありがとね♡
藤丸くん♡
メルトちゃんのおま○こガン突き
するの最高に
気持ちいいよ♡
マシユちゃんとは
また違った味わいだ♡

ふふっ♡
ふふっ♡

え…な、なんで
お礼なんか…

いやいや、
だって二人とも
キミが連れて
きてくれたんでしょ♡
こんな極上穴に
手をつけずにさ♡

くほっ
くほっ
くほっ

くほっ

フェツ

フェツ

は♡♡♡

は♡♡♡

グッ♡
グッ♡

それに
メルトちゃんの場合、
君を虐めてとろけた
ま○こを僕が
いただいでるわけ
だから♡
……

お
お

ひび♡ありがとね♡
藤丸くん♡
メルトちゃんのおま○こガン突き
するの最高に
気持ちいいよ♡
マシユちゃんとは
また違った味わいだ♡

ふっふっ♡♡

くほっくほっ

え…な、なんで
お礼なんか…
いやいや、
だって二人とも
キミが連れて
きてくれたんでしょ♡
こんな極上穴に
手をつけずにさ♡

くほっ

フェツ

フェツ

くほっ

は♡♡♡

は♡♡♡

グワ♡

それに
メルトちゃんの場合、
君を虐めてとろけた
ま○こを僕が
いただいでるわけ
だから♡
……

藤丸くんには
感謝しかないよ(笑)
ね♡メルトちゃん♡

ええっ♡そうね♡
いいダシになってくれて
ありがとうマスター♡
……

お



ぐほっ

う.....う,う

ぐほっ

はっ

はっ

ぐほっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

う、う……っ♡

あは……っ♡

もう射精したの？

さつきはあれだけされて

やっとな射精したのに……

本当に好きなのね

寝取られオナニー♡
量は相変わらずだけど……(笑)

くほっくほっ

寝取られオナニーは
よくないって
教わったんじゃ
なかったの？(笑)
ホントどうしようもない
マスター(笑)
マゾ豚ね貴方♡

ほっほっ

はっ♡♡♡

はっ♡♡♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

う、う……っ♡

あは……っ♡

もう射精したの？

さつきはあれだけされて

やっとな射精したのに……

本当に好きなのね

寝取られオナニー♡
量は相変わらずだけど……(笑)

くほっくほっ

寝取られオナニーは
よくないって
教わったんじゃ
なかったの？(笑)
ホントどうしようもない
マスター(笑)
マゾ豚ね貴方♡

ほっほっ

はっはっ

ちが……

ちが……
いいえ、
違わないわ♡
自分より強いオスに
サーヴァント奪われて
本当は悦んでるん
でしようっ♡♡

はっはっ

童貞が触れたことも
見たこともなかった
おまのことが他人に
使われてるのが
イヤんでしよう♡
ねえ♡ほら♡
ほらあ♡♡



う...う...う...う

ほっ

ほっ

ほっ

はっ

はっ

ほっ

はっ

はっ

はっ

うううう…っ♡

ほくらまたイツた♡
ご主人様が1回射精す
間にもう2回目♡
情けない負け犬ね♡

ぐぼっ

ぐぼっ

ぐぼっ

フェツ

フェツ

はっ♡♡♡

はっ♡♡♡

せ♡♡♡

せ♡♡

せ♡♡

せ♡♡



うううう...っ♡

ほくらまたイツた♡
ご主人様が1回射精す
間にもう2回目♡
情けない負け犬ね♡

ぐぼっ

ぐぼっ

ひひ♡
まあまあメルトちゃん♡
それくらいにしといて
あげなよ♡
そろそろ僕も
射精すからさ♡

ぐぼっ

フェツ

フェツ

はっ♡♡♡

はっ♡♡♡

せゅ♡♡

せゅ♡

せゅ♡

ええ、ご主人様♡
...ほらマスタ！
わかつてるわね？
ご主人様に
感謝を込めて
もう1回よ♡



うううう...っ♡

ほくらまたイツた♡
ご主人様が1回射精す
間にもう2回目♡
情けない負け犬ね♡

ぐぼっ

ぐぼっ

ひひ♡
まあまあメルトちゃん♡
それくらいにしといて
あげなよ♡
そろそろ僕も
射精すからさ♡

ぐぼっ

フェツ

フェツ

は♡♡♡

は♡♡♡

セル♡♡♡

ゼツ

ゼツ

ええ、ご主人様♡
...ほらマスター！
わかつてるわね？
ご主人様に
感謝を込めて
もう1回よ♡

ご主人様が
本物の射精を
見せてくれる
貴方が好きな
瞬間に...♡

あゝ射精る♡
射精る♡

んほ♡

んほ♡

んほ♡

んほ♡

んほ♡

んほ♡

んほ♡

んほ♡

んほ♡

んほ♡



ふう…っ ♡
ふう…っ ♡

おっほほ ♡
気持ちいい ♡
極上穴に膣内射精 ♡

ご主人様 ♡
んひ ♡

トクッ

セックス

ズセ

ビュッ

ズセ

ズセ

♡♡♡

♡♡♡

セックス

ズセ

ズセ

ズセ



ふう…っ♡
ふう…っ♡

おっほほ♡♡
気持ちいい♡
極上穴に膣内射精♡

ご主人様♡
んひ♡♡

トクッ

セチュル

ぶせ♡

ぶせ♡

藤丸くんが床に精液
まき散らしてる前で
メルトちゃん
遺伝子ませませ♡
これは優越感に
浸っちゃうな♡

セチュル

ぶせ♡

♡♡♡♡

セチュル♡

ぶせ♡

ご主人様のアツい
精液子宮で感じる♡
ステキ♡
ご主人様あ…っ♡♡

ぶせ♡

♡♡♡♡

ふう…っ♡
ふう…っ♡

おっほほ♡♡
気持ちいい♡
極上穴に膣内射精♡

ご主人様♡
んひ♡♡

トクツク

セキョル

ぶせ♡

藤丸くんが床に精液
まき散らしてる前で
メルトちゃん
遺伝子ませませ♡
これは優越感に
浸っちゃうな♡

セキョル

ぶせ♡

どの

♡♡♡

どの

♡♡♡

どの

メルトとご主人様
の絆レベル：
70→100♡

セキョル♡

どの

ご主人様のアツい
精液子宮で感じる♡
ステキ♡
ご主人様あ…っ♡♡

こんな童貞よりっ♡
ご主人様のほうが
10倍好き…っ♡♡

どの

はい7回目〜♡
ほらほら
どうしたの？
ペース落ちてるわよ
早漏のくせに♡
量もどんどん減ってるし(笑)



ズン

ズン

ズン

びしょ♡

びしょ♡

ズン

びしょ♡

びしょ♡

びしょ♡

びしょ♡

びしょ♡

ズン

はい7回目〜♡
ほらほら
どうしたの？
ペース落ちてるわよ
早漏のくせに♡
量もどんどん減ってるし(笑)

め、メルト…
も…もう無理…っ

だめ♡
私は他の女みたい
に甘くないわよ♡

